

## 奥能登地域における水稲乾田直播の播種量

### 1 背景・目的

奥能登地域の重粘土水田における省力生産体系の確立に向け、育苗や移植作業が不要な乾田直播のプラウ耕鎮圧体系（図 1）での適正な播種量を明らかにする。



図 1 プラウ耕鎮圧体系の作業工程

### 2 技術のポイント

- プラウ耕鎮圧体系で安定した苗立を確保するには、播種時の砕土率\*が 60%以上のほ場が望ましく、このための砕土整地時の土壤水分の目安は 30%程度以下である（図 2）。土壤水分が 30%を超えるほ場では、作土層が軟弱となっており、砕土整地以降の作業が困難である。
- 播種時の砕土率が 60%の場合、播種量\*\*を 5.4kg/10a とすることで、苗立数 100 本/m<sup>2</sup>（直播の目標）が見込める。砕土率が高いと苗立率が向上することから、播種量を減らすことができる（図 3）。

\* 土壤中の土塊のうち、長径 20mm 未満の土塊が占める割合を重量ベースで表わした数値で網の目 20mm のふるいで分離・測定し算出

\*\*[播種量]kg/10a = [目標苗立数]本/m<sup>2</sup> ÷ 1000 ÷ [苗立率/100] × [粳千粒重]g  
本研究では、粳千粒重を 33.4g(実測値)とする

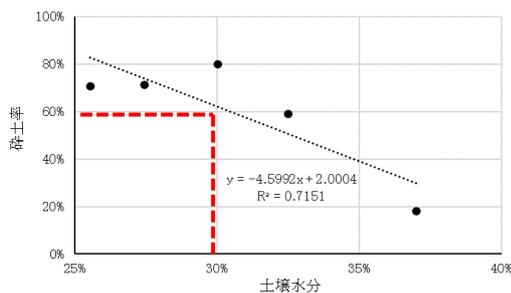


図 2 土壤水分と砕土率

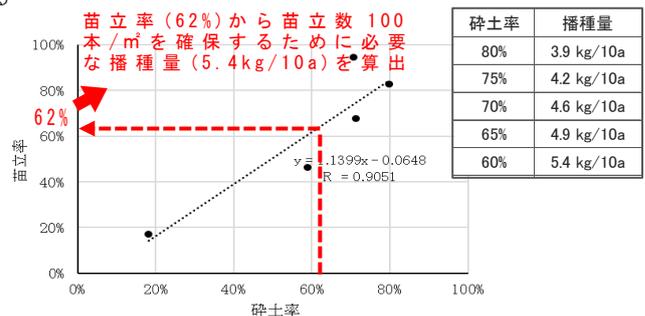


図 3 播種時の砕土率と苗立率  
品種：ひやくまん穀

### 3 成果の活用と留意点

- 砕土整地時の土壤水分が低いほど砕土率が向上するため、反転耕起を前年秋に前倒すなどにより、ほ場が乾いた状態で作業を行う。
- 田面に滞水が残るなど土壤水分が高いほ場では、播種をスリップローラーシーダーで行う体系を検討する必要がある。

問合せ先：総合研究推進部能登農業復興研究室 TEL 0768-67-2104  
担当者：宮崎 靖弘・安達 直人

※本実証は、農林水産省「スマート生産方式 SOP 作成研究（課題番号：水 7D1）」（事業主体：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）の支援により行った。